

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第8号 野菜

発行日 平成26年10月30日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 来年の安定生産に向けて（残さの処分、資材消毒、土づくりの実行）
- ◆ 施設野菜 省エネ対策技術の積極的な実施
- ◆ 露地きゅうり キュウリホモプシス根腐病総合対策について
- ◆ 寒締めほうれんそう ハウスの開閉による生育調節と品質を確保した適期出荷
- ◆ 促成アスパラガス 低温遭遇時間を考慮した適期掘り取りによる収量向上

## 1 生育概況

- (1) 果菜類や露地葉菜類の収穫はほぼ終了に向かい、出荷量は少なくなっています。
- (2) 雨よけほうれんそうの生育は概ね順調です。アブラムシ類、コナダニ、ネキリムシが一部の圃場で見られます。寒締めほうれんそうの播種は10月中旬頃まで行われ、順調に生育しています。  
ねぎは、台風19号の影響で茎葉部の折損が見られる地域もありますが、生育は概ね順調です。さび病、べと病は全域で、葉枯病、ネギアザミウマは一部の地域で散見されます。

## 2 技術対策

### (1) 栽培跡地の整理と来年への準備

栽培が終了した圃場内の作物残さは適切に処分し、翌年の病害虫発生の原因とならないようにしましょう。

特にきゅうり褐斑病が毎年多発する圃場では、支柱やワイヤー、灌水チューブなどの資材に付着した分生子が翌年の発生源になっています。残さの後片づけをしっかりと行うとともに、資材消毒を行い翌年の発生源を排除しましょう。

また、本年の栽培状況を振り返り、来年の安定生産に向けた土づくりを実践しましょう。(図1参照)

### (2) 野菜畑での施肥管理について

県内の野菜畑では、可給態リン酸や交換性カリウムなどの肥料成分において、土壤改良目標値を満たした圃場が多く、中にはリン酸が無施用でもよい水準まで蓄積している事例もあります。

施肥管理にあたっては、土壤分析の結果、土壤改良目標値を満たしている圃場では、作物による肥料成分の吸収量や、浸透水による養分の溶脱量など、「土壤から持ち出された肥料成分を施肥で補給する」補給型施肥基準を適用するとともに、土壤養分の過剰が明らかな場合には、減肥基準に基づき適正な施肥管理に努めましょう。

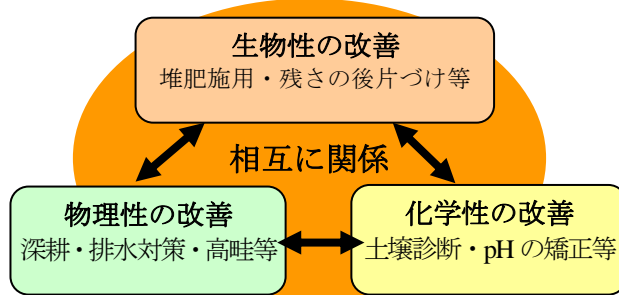


図1 土づくりで重要な三つの性質

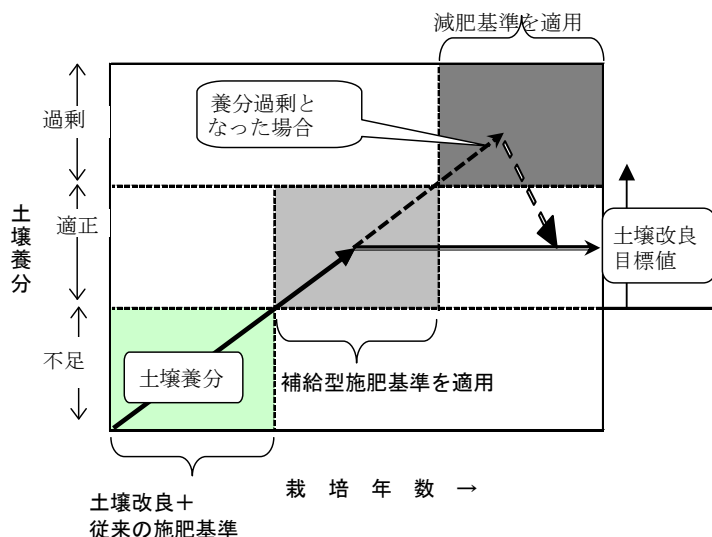


図2 土壤養分に応じた施肥管理基準の適用

### (3) 施設野菜

燃油価格の上昇による施設野菜の生産コスト増加は、農家経営に大きく影響しています。施設野菜においては、省エネルギー対策を積極的に実施しましょう。

具体的には、

- [1] 暖房装置の点検・整備、清掃による暖房効率の低下防止、
  - [2] 温室の被覆資材の隙間からの放熱防止、
  - [3] 内張資材等の導入による保温性の向上や温室内の温度ムラの解消、
  - [4] 作物・品種の特性をふまえた生育ステージに合わせた適正な温度管理の実施、
- などが挙げられます。

### (4) 露地きゅうり

本年は定植後から8月上旬頃までやや乾燥気味に経過しましたが、8月中旬からの低温長雨により、地上部病害が多発しました。また、初期の根張りが不十分な圃場では、生理的な要因を含めた様々な萎れが発生しました。次年度対策のために残さ検診を実施するなど、萎れの主な要因を特定しておきましょう。

岩手県ではH25年3月より「岩手県におけるキュウリホモプシス根腐病総合対策」として、本病の発生圃場のみならず未発生圃場においても発病を未然に防止する対策を進めています。

(図3参照)

土壌分析を踏まえた適正pHへの改良、排水対策や根張りを促すための基本管理は、全ての生産者に当てはまる内容ですので、翌年の栽培に向けて今一度自分の栽培を振り返り改善を進めましょう。

技術内容の詳細については、最寄りの農業改良普及センター、JAへお尋ね下さい。

### (5) 寒締めほうれんそう

ハウスの開閉により、適切な温度管理を行い、出荷できる大きさまで生育させます。従来多く栽培されていた「朝霧」より伸長が遅い品種（「冬霧7」「雪美菜」等）も導入されていますので、品種の特性に応じた管理を心がけましょう。

寒締めは、ほぼ収穫できる葉長になった時点で、ハウスの入口やサイドビニールを開放し、1週間程度10℃以下の寒気にさらして行います。十分な低温に遭遇する前に収穫すると品質が劣ることが懸念されますので、出荷時には最大葉の葉柄の絞り汁の brix 糖度が8%以上になっていることを確認してから出荷しましょう。

### (6) 促成アスパラガス

地上部から貯蔵根への養分転流は茎葉が完全に黄化するまで続いています。刈り取りは茎葉が十分に黄化してから行いましょう。

また、十分に低温遭遇した株を利用することで、収量が増加します(図4参照)ので、5℃以下の低温遭遇時間を考慮して掘り取り時期を決定しましょう。

10月26日までの県内の主なアメダス地点の5℃以下の低温遭遇時間は次表のとおりです。

栽培面積が大きい場合には、掘り取り作業と伏せ込み床の準備を計画的に進めましょう。

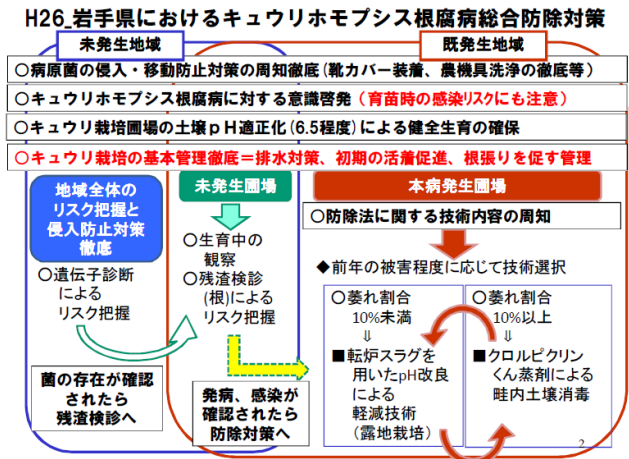


図3 岩手県におけるキュウリホモプシス根腐病総合対策

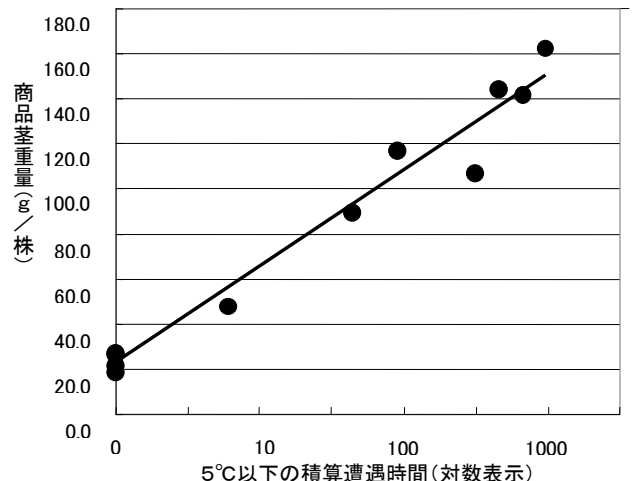


図4 掘り取り前根株の低温遭遇時間と商品茎重量との関係 (商品茎: 5g以上の若茎)

伏せ込み後に、伏せ込み床内の温度を急に上げると収量が少なくなる場合がありますので、伏せ込みしてから1週間程度は無加温とし、その後、徐々に温度を上げましょう。

ハウス内の保温対策を万全にし、加温コストをできるだけ低減しましょう。

表 5℃以下積算遭遇時間(10月26日まで)

アメダス地点	二戸	奥中山	盛岡	北上
5℃以下積算遭遇時間	71	91	21	0
90時間到達見込み*	11月1日	10月26日	11月14日	11月19日

\*10月26日までは各アメダスの本年値、それ以降は昨年と同じ気象推移となった場合、5℃以下の低温遭遇時間が90時間に達する月日

農作物技術情報の26年度定期発行は今号で終了となります。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は  
秋の農作業安全月間です**

**豊作を 無事故で迎える いわての農業**

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。